

宍粟市社協 第4次地域福祉推進計画 (愛称：支え合いふくしプラン)

2年次レポート

第4次地域福祉推進計画

支え合いふくしプラン
令和2年度～6年度

2年度

3年度

4年度

5年度

6年度



社協が取り組む“食の支援”を来場者のみなさんにPR。善意銀行の有効活用や寄付への協力、生活困窮者支援の取り組みへの理解、赤い羽根共同募金運動の啓発など、イベントを通して発信 ～いちのみやふるさとまつ R3.11.3～

第4次地域福祉推進計画を進める会
社会福祉法人 宍粟市社会福祉協議会

新型コロナに追われて



第4次地域福祉推進計画2年次が過ぎました。

この間、新型コロナウイルス感染症に追われた2年となりました。

コロナ禍で顕在化・深刻化した社会的孤立や生活困窮問題、また「8050問題」「ダブルケア」等、地域生活課題の複雑化・多様化に対応するため、社協では、「みんなですすめよう ふくしてまちづくり～ “ほっとけない” をほっとかない宍粟に～」を地域福祉目標に掲げた地域福祉推進計画に基づき、

各種事業を展開してきました。

コロナ特例貸付や善意銀行預託食材活用の無料配布など新規事業を実施し、コロナ禍での地域活動実施上の感染予防ガイドブックの活用等により、少しずつではありますが、地域福祉活動の再開が見え始めたところです。

社協では、常に推進計画の取り組み進捗状況を点検・評価し、次年度への改善策を検討し、計画に掲げる目標達成に向け、地域福祉の推進を図ってまいります。

宍粟市社会福祉協議会

会長 秋武 賢是

福祉は町の未来を照らす



福祉という言葉を私なりに訳してみますと「喜び」「笑顔」となります。いくらかの苦しみ悲しみを誰もが抱いていますが、貴方の身近な人は喜びを感じ、笑顔で生活されていますか。乳幼児から終活期までの日々、自分や家族、職場や地域の中で心身のバランスを保ちながら、誰もが笑顔で暮らせることを願うばかりです。

全戸配布されている社協だよりで分かりますように、一人一人の喜びを願いながら勤めていただいている社協職員の皆様、福祉活動に種々取り組んでいただいている皆様のおかげで、宍粟市は福祉の充実度がとても高い地域と言えます。

人口流出が問題視される中で「みんなが住みたいまちづくり」を考える時、税や子育て経費の安さが選ばれる町の条件とも言われますが、人の流出に歯止めをかける方策のひとつは、福祉の充実度をさらに高めてアピールすること。「この町で住みたい」と感じる仕掛けづくりだと思います。そのために私たちにできることはまだまだあります。

第4次地域福祉推進計画をすすめる会

委員長 藤原 誠

もくじ

1 第4次地域福祉推進計画 2年次（3年度）のまとめ・・・1

2 第4次地域福祉推進計画の概要と進捗状況・・・2

活動目標1 お互いの多様性を認め合う福祉学習・
協議の場をすすめよう・・・3

活動目標2 地域のだれもが安心できる居場所をつくろう・・・4

活動目標3 地域を支え合うネットワークの充実をはかろう・・・5

活動目標4 地域で見守り活動をすすめよう・・・6

活動目標5 だれもがだれかの役に…ボランティアの輪を広げよう・・・7

活動目標6 地域で防災・減災の意識を高めよう・・・8

活動目標7 暮らしを支える福祉サービスを充実させよう・・・9

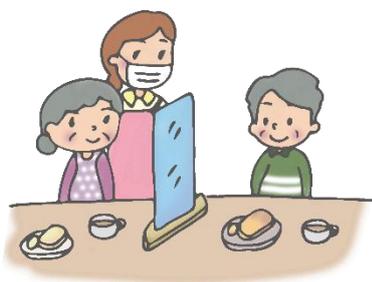
活動目標8 地域の身近な相談を受けとめてつなごう・・・10

社協目標1 住民から信頼される組織をつくります・・・11

社協目標2 住民に必要な情報を広く伝えます・・・12

社協目標3 地域福祉活動財源の確保につとめます・・・13

第4次地域福祉推進計画を進める会 委員名簿・・・14



1

第4次地域福祉推進計画 2年次（3年度）のまとめ

1) みんなが気軽に利用できる施設に ～やすらぎ福祉センター～



会議、研修、交流…社会参加の場として
～やすらぎ福祉センター～

宍粟市社協では、やすらぎ福祉センター（旧一宮保健福祉センター）の老朽化に伴い、宍粟市からの補助を受け、建物の屋根や外壁等の大規模改修工事を実施し、12月に工事が終了しました。ボランティア活動の推進、福祉関係の総合相談窓口、緊急時の避難場所など、市民のみなさんのいざと言う時の安心拠点として、気軽に利用いただける施設を目指します。

2) コロナ禍でがんばる人たちを応援 ～事業やサービスが途切れないように～

令和3年度も、新型コロナの影響による相談が後を絶たず、市社会福祉課と連携し、生活福祉資金の貸付や食材の提供など、生活困窮者へ継続的に支援しました。

配食サービスでは、緊急事態宣言の期間も休止することなく、ボランティアや市内仕出し業者の協力によりお弁当を届けることができました。介護保険サービスや障がい福祉サービスは、感染予防対策を徹底しながら、個々のニーズに対応したサービスの提供に努め、利用者やご家族を支えました。



コロナ禍でお困りの方に食材を「思いやりセット」として配布
～無料配布会～

3) 地域福祉の推進に向けて ～第9期がスタート～

6月22日の午前で開催した第43回評議員会において、第9期役員（理事・監事）が選任され、同日、午後で開催した第9期第1回理事会において、会長に秋武賢是氏を再任しました。コロナの先行きが見通せず、本会の財政状況も厳しい中で、社協組織のあり方や事業の展開方法など検討しています。



地域に根ざした
社会福祉法人として
～第9期役員～

4) 主役はみなさん!! 地域と共に200号 ～こんにちは! 社協です!!～



地域の方との出会いやつなごを紙面づくりに
～社協広報紙～

社協広報紙「こんにちは! 社協です!!」は、平成17年7月の創刊号から数えて200号を迎えました（2月）。宍粟市社協合併後、「手作りで温かく、地域のみなさんが主役になる紙面づくりを」との思いで、職員が毎月分担して作成しています。今後も地域のイキイキした情報を発信していきます。

5) 4次計画の進捗を点検・評価 ～第4次地域福祉推進計画を進める会～



グループワークで意見を交換
～R4.3.24～

4次計画の進捗評価を行うため、「4次計画を進める会」を半期ごとに開催しました。進める会では、「コロナ禍で計画どおり進まず大変だったと思う」「コロナで出来なかったで終わらず、工夫等見せてほしい」「たくさんの事業に取り組んでいるが大丈夫か」など、委員から貴重な意見やアドバイスをいただき、次年度に向けた課題や目標を確認する機会になりました。

2 第4次地域福祉推進計画の概要と進捗状況



「第4次地域福祉推進計画」は、社協の使命と地域福祉の情勢を踏まえ、「みんなですすめよう ふくしでまちづくり ～ “ほっとけない、を ほっとかない” 宍粟に～」を、5年間（令和2年度～6年度）で宍粟市社協がめざす地域福祉目標として定めています。

4次計画では、住民・団体・組織・専門職など、みんなで取り組む「活動目標（1～8）」と、活動目標達成のために社協が取り組む「社協目標（1～3）」を提示し、これらの目標に取り組むために、全体で38の個別活動目標を設定しています。

令和3年度（2年次）も、コロナ禍の中、住民や団体等のみなさんと協力し取り組みを進めました。進捗状況は、3頁以降をご覧ください。

【活動目標1】お互いの多様性を認め合う福祉学習・協議の場をすすめよう

●実体験を通して感じる事が大切

市内の教職員を対象に「福祉学習研修会」を開催し、参加者から「子どもたちに実体験を通して感じる事が大切」と福祉学習の大切さを再確認いただきました。また、「福祉学習プログラム」のてびきを活用し、アイマスク・車いす・高齢者疑似体験など、市内各学校10校で19教室が行われ、「ふくしてすごいんだね」「人に優しくしてあげたい」など、子どもたちからたくさんの感想が聞かれました。



先生方といっしょに福祉学習を
～教職員対象 福祉学習研修会～



見える範囲が狭いと物を探すのも大変
～波賀小学校 弱視体験～



友だちの背中を支えてあげて
～千種小学校 高齢者疑似体験～



普段歩いている道が車いす
だとなんか大変だとは…
～山崎小学校 車いす体験～

●ボランティア体験や社協の活動に挑戦したよ！



目の見えない人のお手伝い体験
～夏休みボランティアスクール2021～



絵手紙ボランティア体験
～夏休みボランティアスクール2021～



配食サービスで調理を体験
～トライやるウィーク～

地域のボランティアの方々に講師としてご協力いただき、さまざまな体験教室を開催しました。市内の延べ37人の児童が、教室を通してボランティア活動を知り、交流する機会となりました。また、市内の中学2年生（千種2名・波賀2名・一宮3名・山崎3名）がトライやるウィークで、ボランティアや社協の活動を体験しました。

●「ぼくたち、わたしたち」の成長をお手伝い

「みんなでわくわく事業」として、市内21の幼稚園や保育園等に、大型絵本、パネルシアター、ヒノキ製木工玩具から選んでいただいたものを贈りました。また、縫製ボランティアの手作り品が市内の保育所に届けられ、園児たちの成長をお手伝いしました。



歳末たすけあい募金を活用
～波賀幼稚園 大型絵本～



手作り布団カパーや衣装が
～縫製Vつむぎの会～

【活動目標2】地域の誰もが安心できる居場所をつくろう

●子どもたちにおいしい食事と笑顔をお届けよう！～こども食堂がオープン！～

宋栗でも2団体で『こども食堂』が立ち上がりました。本会では、この2団体の立ち上げ経費として赤い羽根共同募金を活用した、居場所づくり応援事業助成金を交付しました。また、波賀ふれあい市場「にこにこマーケット」で、子どもたちをはじめ誰もが参加できる地域の食堂『にこにこ食堂』がオープンするなど、いずれの活動も生活支援コーディネーターがサポートしました。



カレー食堂と学習支援
～かれーやさん～



自分にあった楽しい時間を
～しろうこども食堂～



みんなが元気になる地域の居場所
～にこにこ食堂～

●当事者が楽しく参加できる機会を

身体障害者福祉協会では、障がい者社会参加促進事業としてスポーツ教室に取り組んでおり、今回、パラリンピック開催にちなみ「ポッチャ」を体験しました。

また、男性介護者等を対象とした料理教室では、社協栄養士の指導により、手際よく短時間でできる料理を作りました。



初めてしたけど楽しいな
～身体障害者福祉協会～



今度は混ぜご飯をしようか
～男性介護者料理教室～

●“コロナ禍でも今できること”を工夫して



飛沫防止パーテーションを活用
～上野ふれあい喫茶～

コロナ禍で活動自粛の地域が多い中、職員（コミュニティワーカー、生活支援コーディネーター等）の派遣や安心して活動するためのガイドブックの発行、感染予防用品（飛沫防止パーテーション、サーキュレーター等）の貸出など、“今できること”で活動を再開される地域を応援しました。

（ふれあい喫茶・サロン：43団体・114回）



青空のもとビンゴ大会
～中野ふれあい喫茶～



銭太鼓が会場を盛り上げます
～岩野ふれあい喫茶～



繁盛のみなさんを喫茶で笑顔に
～はんせキッチン～

●ひきこもり支援への意識向上やスキルアップの機会に

ひきこもりの居場所「歩歩」
に何い担当者が研修
ひきこもり支援担当者会



「ひきこもり支援担当者会」を毎月1回（WEB）開催し、本会運営の各事業所（通所介護、訪問介護等）へ担当者による学習会を開催し、ひきこもり支援に取り組む意義について、職員間で共有する機会を増やしました。また、赤穂市役所・赤穂市社協担当職員とのWEBによる交流会やひきこもりサポーター育成研修の受講など、スキルアップを図りました。

【活動目標3】 地域を支え合うネットワークの充実をはかろう

●宍粟の地域福祉を進めていくネットワークづくり

本会が事務局を務める委員会に、自治会、民生委員、ボランティア、商工会、教育、健康、介護、医療、NPO 団体、行政など、地域で活躍されている組織や団体の方々が参加し、それぞれの立場でたくさんの意見やアイデアを出し合いました。また、社会福祉法人連絡協議会は、各法人の取り組みや4年度に向けた調整等、オンラインでの情報交換会を行いました。



委員同士のつながりの場に
～地域福祉推進計画を進める会～



宍粟のこれからを意見交換
～山崎地域福祉推進委員会～



共同募金運動を円滑に進めるために
～宍粟市共同募金委員会～

●高齢者を支える新たな仕組み ～買い物支援の充実に向けて～



送迎車の待ち時間に「にこにこマーケット」でお買い物
～社会福祉法人かえで園の買い物支援バス～



（福）かえで園では、地域貢献活動として、デイサービスの送迎時間外の送迎車両を活用し、月1回開催の「オレンジカフェ」の送迎を7月から行っています。送迎車の運行は、北部・南部とし、送迎車の待ち時間を利用して「にこにこマーケット」で買い物ができる仕組みが出来ました。また、マックスバリュ、カワベ、コープこうべ等の移動販売車の調整や、高齢者への買い物に関するアンケートの実施など、生活支援コーディネーターが買い物支援の充実に向けた取り組みを進めました。



買い物状況とニーズ把握
～買い物に関するアンケート～



移動販売業者との連携
～マックスバリュ～

【活動目標4】 地域で見守り活動をすすめよう

●見守り・支え合い活動を進めるために

昨年度は中止となりました「小地域福祉活動説明会」と「福祉委員研修会」を市内4会場で開催し、コロナ禍での福祉活動の提案を行いました。活動運営費として、福祉連絡会に助成金（155自治会・320万円）を交付しましたが、活動を自粛される地域が多くありました。その中で、生栖自治会では、創意工夫で住民同士の助け合いを実践されており「代表福祉委員連絡会議」の機会に報告いただきました。



福祉委員の役割を改めて確認
～福祉委員研修会（波賀）～



赤い羽根見守り応援助成金の説明
～小地域福祉活動説明会（山崎）～



生栖代表福祉委員より地域づくりの実践報告
～代表福祉委員連絡会議（一宮）～



女性対象の
草刈り講習会 男の料理教室

●地域でつながり続けるために

新型コロナの影響で、家の中で過ごすことが増えた高齢者の孤立を防ごうと、福祉連絡会のメンバーでの話し合い（地域見守り会議）、野菜や花づくりなどを通じた見守り合い、訪問活動など、地域でつながり続けるために、自治会長や代表福祉委員を中心にさまざまな活動が行われました。



話し合いの機会を大切に
有賀福祉連絡会



公民館の屋外で楽しい時間を
～水谷自治会 寄せ植え～



福祉委員が高齢者宅を訪問
～安黒敬老会～



イチゴの苗を植えたプランターを
10件のご家庭に届けました
～塩田福祉連絡会～



●民生委員・児童委員との連携で高齢者を見守り

各町の民児協定例会での情報共有や配食サービス、歳末たすけあい事業（特別給食・灯油配達・カレンダー配布）、生活福祉資金、あいめ～る（波賀）など、民生委員・児童委員と連携を図りながら取り組みを進めました。



ひとり暮らし高齢者を訪問しサービスを取りまとめ
～歳末たすけあい事業～

【活動目標5】だれもがだれかの役に…ボランティアの輪を広げよう

● 企業や団体の地域貢献活動を進めるために



食材の提供に感謝します
～ハチ食品(株)～

赤い羽根共同募金運動への協力や善意銀行への寄付、生活困窮者支援など、地元の企業や団体が地域貢献活動として取り組みを進めました。



募金機能付き自販機
～宍粟福祉会さつき園～



募金百貨店プロジェクト
～(株)伊沢の里～

● ボランティアの輪を広げるために

ボランティア・市民活動センターが、活動助成金の申請や保険加入の手続きなどサポートする中で、ボランティア活動の自粛と合わせて解散されるグループも出てきており、コロナの影響が続いています。(105グループ・104万円)

「傾聴ボランティア講座(全3回)」を6月から開催し、松尾やよいさん(夢こらぼ)と傾聴ボランティア「ロバの耳」のみなさんを講師に迎え、コロナ禍だからこそ、どの場面でも大切な傾聴を活かせるよう基本を学びました。



善意銀行預託金を活用
～ボランティア活動助成金～



安心して活動するために
～ボランティア共済～



相手の想いを受けとめよう
～傾聴ボランティア講座～

● 高校生がボランティア活動に奮闘



善意銀行へ寄付を
～千種高校ボランティア部～



難民の子どもたちに
服を届けました
～伊和高校V実践～



配食サービス利用者に
敬老の日プレゼント
～山崎高校生活創造科～

配達ボランティアをはじめ、敬老の日のプレゼント、難民の子どもたちに服を届ける活動、寄付活動など、市内の高校生(山崎高校・伊和高校・千種高校)が、コロナ禍の中活躍しました。

● 高齢者の知識と経験を地域活動に

宍粟市老連広報誌「ささゆり」では、老人クラブ会員の知識や経験などさまざまな情報を発信しました。また、昨年中止となりました、「小中合同しめ縄づくり」では、千種町内各自治会の公民館等に訪れた地元の児童と生徒たちに、老人クラブのみなさんが、しめ縄の作り方を丁寧に指導されました。



ささゆり第17号



伝統文化を児童と生徒たちに
～小中合同しめ縄づくり～

● ボランティア同士の交流の機会を

栗木剛さんを講師に
ボランティアのつどい



昨年度は、コロナの影響により、ボランティア連絡会の行事のほとんどが中止となり、会員同士のふれあいや交流の機会を持つことができませんでした。3年度は、ボランティアの日をはじめ、交流イベント、追悼行事、会報誌の発行など、少しずつですが各町の特性を活かした取り組みが進みました。



グラウンド・ゴルフで交流
～波賀ボランティア連絡会～



心も体も気持ちの良い一日に
～山崎ボランティア連絡会～



支部それぞれの情報を発信
～ボランティア連絡会通信～

【活動目標6】 地域で防災・減災の意識を高めよう

● 福祉専門職と地域住民が連携して

兵庫県では、福祉専門職（介護支援専門員、相談支援専門員等）が、在宅の高齢者や障がい者（避難行動要支援者）の避難のための個別避難計画の作成を促進しており、本会職員も適切な避難計画を作るために、地域との連携による避難訓練に取り組みました。

また、コロナの影響により地域活動が自粛される中で、防災学習会を計画される自治会に、本会職員が関わり、夏休みボランティアスクールでは、児童たちが、防災士から災害時や日頃から気をつけることを学びました。



保健師、介護支援専門員、生活支援CO等が参加
～災害避難訓練（下宇原・川戸）～



災害に役立つ防災グッズを
～夏休みVスクール～



自分の地域を知る機会に
～宇野自治会 防災学習会～

● 経験と教訓を語り継ぐために

本会と宍粟市ボランティア連絡会では、「阪神淡路大震災」と「東日本大震災」の追悼と啓発を4会場で行いました。震災を知らない世代が増えている中で、その経験と教訓を語り継いでいくために今後も取り組んでいきます。



震災を風化させないために
～宮ボランティア連絡協議会～



東日本大震災から11年
～千種保健福祉センター～



1.17の追悼の祈りを込めて
～やすらぎ福祉センター～

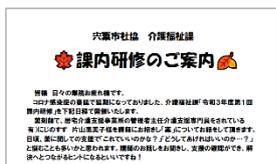
【活動目標7】暮らしを支える福祉サービスを充実させよう

●法人が経営する介護・障がい事業所として



安全・安心なサービスの提供を
～訪問介護事業所～

コロナによる生活の影響が続き、事業全体が緊張を強いられ、介護保険や障がい福祉のサービス利用者やご家族の不安は募る中で、介護支援専門員や相談支援専門員が、市内各サービス事業所等とスムーズにサービスが繋がるよう調整を行いました。また、令和3年度介護報酬改定・障害福祉サービス等報酬改定に関わる各種委員会（高齢者・障害者虐待防止委員会、ハラスメント対策委員



テーマは「お薬」
～介護福祉課 課内研修～

会、仕事と介護（医療）の両立委員会、感染症対策 BCP 策定部会）を設置し、虐待防止や職場環境の改善に向けた取り組み、感染症や災害への対応力強化など進めました。



やすらぎ福祉センター
～通所介護事業～
周辺をみながら散歩

●障がいのある人の自立した生活をお手伝い



視覚に障がいのある人に
広報紙を朗読録音
～ふきのとう波賀～



サーモン養殖では
利用者が餌やりを担当
～あおぞら太陽福祉会～



盲ろう者の志水さんを
紹介し大きな反響が
～社協広報紙～

相談支援専門員が、障がいのある人の生活のサポートとして様々な相談（就労支援等）に対応しました（463件）。

また、朗読ボランティアやデイジー穴粟の協力のもと、録音図書（CD）を作成し、視覚に障がいのある人へ、タイムリーな情報をお届けしました。

●コロナ禍で配食サービスを継続

ボランティア（調理・配送・配達）や市内仕出し業者の協力により、サービスが途切れることなく実施することが出来ました。その中で、「コロナ禍における配食サービスの実施基準」を設けたことにより、緊急事態宣言等においても迅速に対応しました。また、配食サービスコーディネーター（栄養士）が4支部での調理指導を行い、受理会議、食材調達、利用料徴収、市内業者との調整等、業務全般に取り組みました。



希望される方が安心して
利用できるように
～配食Sチャリシ～



サービス利用者も参加し意見交換
～配食S運営委員会～



ボランティアの声を大切に
～調理V代表者連絡会（千種）～



ひとり暮らし高齢者の
見守りをお手伝い
～配達ボランティア～

●判断能力に不安がある方の生活をお手伝い

日常生活自立支援事業専門員、担当職員、生活支援員が連携し、判断能力に不安がある方への支援を行い、必要な方には、成年後見制度の利用を含め適切な支援につなげ、新規や対応困難なケースについても、話し合いの場（受理会議等）を持ちながら共有を図りました。12月の広報紙で「日常生活自立支援事業をご存じですか？」をテーマに内容を紹介し、市民に事業への理解を求めました。



市民に事業の理解を
～社協広報紙～

【活動目標8】地域の身近な相談を受けとめてつなごう

●関係機関と連携しさまざまな相談に対応

生活福祉資金、日常生活自立支援事業、介護サービス、障がい福祉サービスなど、関係機関と連携を取りながら相談に対応しました。専門的な相談の受け皿として無料法律相談を開設し、本会が契約の弁護士が市民からの相談（相続、借金、ご近所トラブル等）に対応しました（5回：33件）。また、社協広報紙についても、権利擁護に関するさまざまな相談事例を紹介いただきました。



暮らしの相談・お困りごとは社協へ
～社協まるわかりガイド～



弁護士と連携し相談に対応
～無料法律相談～



弁護士が権利擁護に関する
さまざまな相談事例を紹介
～社協広報紙～

●結婚相談員の活動が制限される中で



あなたの出会いを応援します
～結婚相談員 PR チラシ～



傾聴をテーマに学びの時間を
～結婚相談員研修会～



結婚相談員が参加者をサポート
～婚活カフェ～

令和3年度に入っても、結婚相談所の休止や独身者への相談支援など、コロナの影響が続き、結婚相談員活動が制限されました。その中で、少人数での出会いの場（ミニ交流会）の提供や、新たな情報ツールとして、ホームページを活用した情報発信や相談受付などを行い、結婚相談所や出会いサポートセンターへの新たな登録につなげました。相談員のサポートにより新たな紹介やお見合いまで進みましたが、成立まで至りませんでした。

●行政と連携した生活困窮者支援

市役所北庁舎で無料配布を2回実施
社会福祉課と連携



市民や企業、団体から
たくさんの食材が



緊急小口資金・総合支援資金
貸付件数：61件 相談数：191件



歳末募金も
食材に活用
～思いやりセット～



本会と市社会福祉課の担当者が、生活困窮者支援に関する情報交換を定期的に行い、包括的な支援につながるよう連携を図りました。令和3年度も、コロナの影響により、生活福祉資金の貸付に関する相談が続く中、コロナ禍でお困りの方や子育て世代の方などに、市民や企業、団体等から善意銀行にお寄せいただいた食材を無料でお渡ししました。今後も、市社会福祉課と連携しながら支援を行います。

【社協目標1】住民から信頼される組織をつくります

●社会福祉法を遵守した法人運営を行うために

理事会（執行機関）では、業務監査のため監事が毎回出席し、各理事それぞれの立場から経営や事業についての確かな助言を行い、評議員会（議決機関）においても活発な意見が出るなど、社会福祉法を遵守した法人運営を行うために、理事会、評議員会、監査機能の充実を図りました。



長年に渡りご尽力頂いた
社協役員・結婚相談員に
～社協功労者表彰～



事業計画・予算など慎重に審議
～社協評議員会～

●やすらぎ福祉センターがリニューアル

やすらぎ福祉センターの老朽化に伴う大規模改修工事（屋根や外壁等）が12月に終了しました。今後は、センターが市民の憩いの場として、さまざまな機会にご利用いただけるよう整備を進めていきます。



消防職員から
指導を受けて
消防訓練



クリスマスリースのプレゼント
～はりま自立の家～



健康づくりのお手伝い
～健全会栄栗支部～



デイサービスの利用者
～トライやるウィーク～

●社協の組織体制や事務事業について検討

組織体制と関係する
事業について検討
配食サービス



今後は踏まえた社協の組織体制を検討するため、理事と職員で「社協組織検討会議」を8月に立ち上げました（5回開催）。検討会議では、組織体制（本部・支部）や事務事業の方向性について協議し、委員から活発な意見をいただきました。検討内容は継続審議として次年度に取りまとめます。

●実習で宍粟市の「ふくし」を学ぶ



実習での学びと気づきを発表
～社会福祉士実習～



高校時代に貴重な体験を
～インターンシップ～

社会福祉士取得を目指す地元出身の学生2名（神戸医療福祉大学、神戸学院大学）を8月から9月にかけて実習生として受け入れ、終わりには本会職員を前に実習の学びを発表しました。また、インターンシップで山崎高校生を1週間受け入れ、本会が行う各事業に関わりました。

【社協目標2】住民に必要な情報を広く伝えます

●市民のみなさんに必要な情報を届けるために

社協広報紙「こんにちは！社協です！！」は、平成21年台風9号豪災害や新型コロナの感染拡大など、大変な時期においても必要な情報を発信し続け、2月に200号を発行しました。やすらぎ介護センター（通所介護事業所）では、「ひだまり」を毎月発行し、デイサービスの様子や利用者・家族の声など紹介しました。また、地域福祉活動を推進するための冊子等を発行（赤い羽根共同募金配分金を活用）し、コロナ禍で安心して地域活動を展開いただくために、“新しい”地域福祉活動ガイドブックを福祉関係者のみなさんに配布し活用いただきました。



こんにちは！社協です！！



ほっこり通信（波賀）



デイだより ひだまり



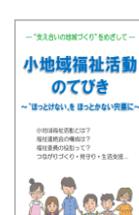
ホームページ



ボランティア活動
リーフレット



福祉学習プログラムの
のてびき



小地域福祉活動
のてびき



“新しい”地域福祉活動
ガイドブック

●オンラインを活用した情報交換の機会を

兵庫県社協などが主催する会議や研修会は、ZOOM を活用したオンラインでの開催が主流となり、本会職員も積極的に参加しました。内部会議（ケアマネ調整会議、地域福祉課全体会議など）についてもオンライン（WEB 会議）で開催し、年間通して途切れることなく情報共有が図れました。

昨年度中止になった「こどもホームステイ事業」は、コロナ禍での子どもの受け入れが難しく、オンラインで子どもたちとホストファミリーが面会し、久々の再開に会話がはずみました。

また、地域でのイベントや行事、交流活動の再開時には、職員が地域に足を運び情報収集に努めました。



WEB会議で情報交換
～地域福祉課全体会議～



オンラインで笑顔の再開
～こどもホームステイ事業～

【社協目標3】地域福祉活動財源の確保につとめます

●活動財源への理解と協力を呼びかけながら



赤い羽根シールが
共同募金のシンボルとして
～赤い羽根共同募金～

善意月間（善意銀行預託金）、社協一般会費、赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金について、自治会を通じて活動財源への理解と協力を呼びかけました（自治会長宅に趣意書や募金袋、資材をお届けしました）。社協広報紙で、会費、募金、寄付金の使い道について紹介しましたが、全体的に減少の傾向が続いており、市民の方が納得できる使い道の提案や募金方法などを検討する必要があります。



善意推進月間のPRに協力
～誠心学園保育園～



各支部の地域担当職員が集まり
～募金等の依頼準備作業～

●地域福祉活動を安定して展開するために

社協が果たす役割を明確にし、地域福祉活動を安定して展開するために、市や県社協の補助事業・委託事業に取り組みました。また、毎年県社協に申請し続けた成果により、生命保険協会から福祉巡回車を寄贈いただき、厚生労働省「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」では、30万円の交付を受け、食の支援等に活用しました。今後も、民間団体等が募集する助成事業について、該当する事業があれば積極的に活用します。

生命保険協会から福祉巡回車を寄贈いただきました!



地域活動に活用します
～福祉巡回車の贈呈～

第4次地域福祉推進計画を進める会 委員名簿

任期：令和3年3月24日～令和5年3月23日まで

(敬称略)

役職名	氏名	備考
委員長	藤原 誠	鷹巣活性化委員会事務局長
副委員長	水口 正己 ※	宍粟市社会福祉協議会理事
委員	飯田 聡	宍粟市商工会経営支援第2課長
委員	谷尻 博誉 ※	宍粟市教育委員会事務局次長・学校教育課長
委員	中村 圭三	訪問看護ステーションプラス看護師
委員	加藤 智子	健康運動指導士・元地域おこし協力隊員
委員	大路 貴広	NPO法人ピアサポートひまわりの家事務局長
委員	進藤 恭児	ハリマ農業協同組合理事
委員	大垣 陽子	山崎東放課後子ども教室「わくわくパーク」代表
委員	小沼 経子	コミュニティハウス青い家前代表
委員	植木 由喜子	宍粟市結婚相談員
委員	西中 登美子	社会福祉法人波賀の里福祉会（かえで園）副施設長
委員	亀井 欣也	宍粟市商工会理事
委員	三木 義彦	宍粟市健康福祉部次長
アドバイザー	戸田 達男	兵庫県社会福祉協議会地域福祉部長
役員	秋武 賢是	宍粟市社会福祉協議会会長



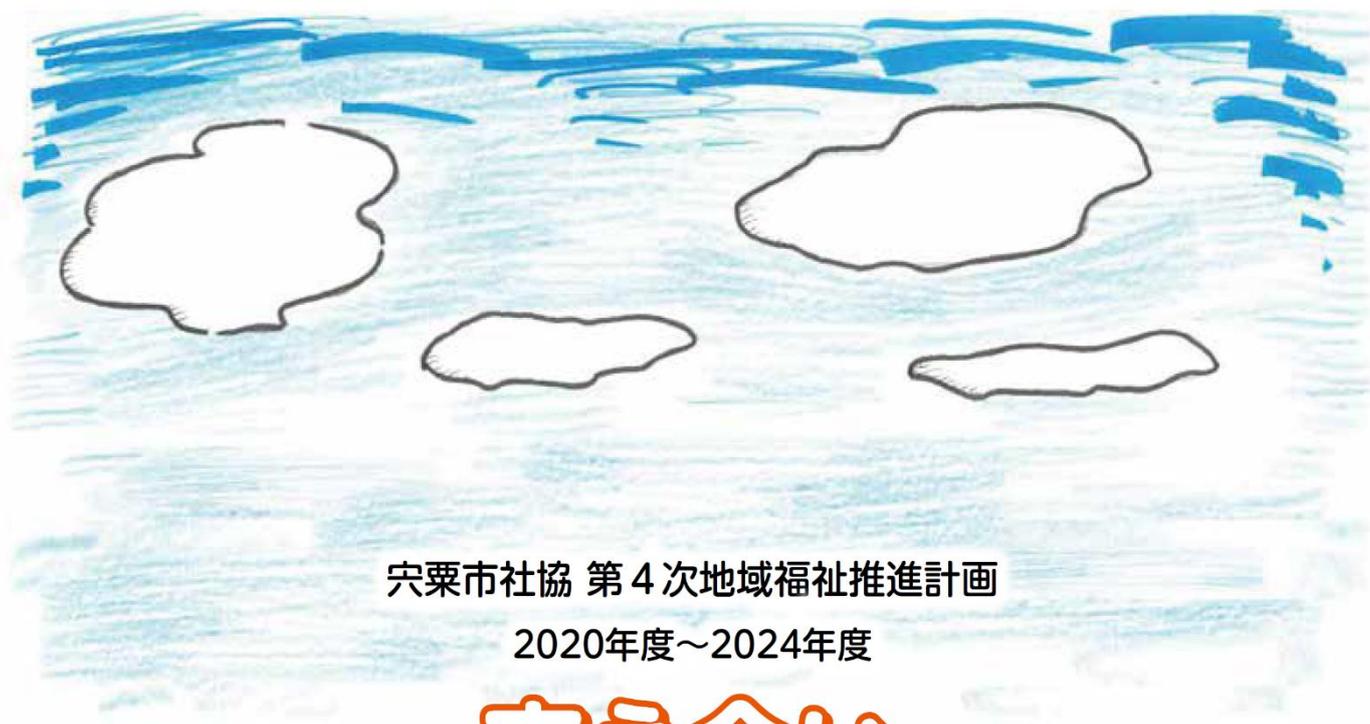
※2名の委員が交代。

第4次地域福祉推進計画を進める会 職員名簿



氏名	役職名	備考
春名 章宏	事務局長	
春名 豊滋	事務局次長	一宮支部長
◎ 波多野 好則	地域福祉課長	山崎支部長
前野 瑞恵	総務課長	
東 由美	介護福祉課長	
坂本 幸子	地域福祉課副課長	波賀・千種支部長
○ 森井 裕矢	地域福祉課係長	コミュニティワーカー
山本 めぐみ	地域福祉課係長	コミュニティワーカー
田中 祥仁	地域福祉課係長	生活支援コーディネーター

◎主担当 ○副担当



宍粟市社協 第4次地域福祉推進計画

2020年度～2024年度

支え合い ふくしプラン

みんなですすめよう ふくしでまちづくり

～「ほっとけない」を ほっとかない宍粟に～



2022（令和4）年5月発行

編集・発行 社会福祉法人 宍粟市社会福祉協議会

〒671-4137 兵庫県宍粟市一宮町間賀 300 番地

電話 0790-72-8787 FAX 0790-72-8788

<http://www.shiso-wel.or.jp>

E-mail: shakyo@shiso-wel.or.jp